

掛川市「考古の日」記念

# 出土文化財展

と き：平成5年6月11日(金)～13日(日)

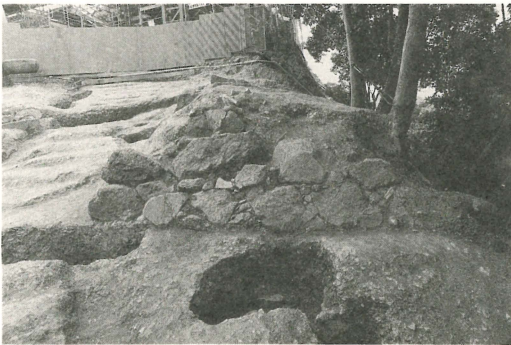
と ころ：掛川市生涯学習センターギャラリー1階

1993

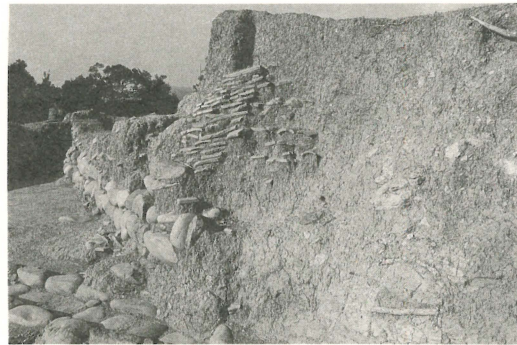
掛川市教育委員会

## かけがわじょうあと 掛川城跡

- 1、調査地 掛川字元郭内1、138-24ほか
- 2、調査の原因 掛川城公園整備に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 5,000㎡
- 4、調査の期間 平成4年6月～平成5年8月（予定）
- 5、調査の内容 今年度の調査では、天守下門、腰曲輪、本丸、十露盤堀の一部がその対象となりました。天守下門とは天守閣の南下方につくられた門で、今回はその基壇の石垣が発見されました。本丸から天守下門に至る腰曲輪では、玉石でつくられた階段と側溝が良好な状態で発見されました。本丸は大部分が攪乱されていましたが、腰曲輪に続く側溝の痕跡や柱穴、溝などが発見されました。また本丸がつけられる前の、中世のお墓（五輪塔・宝篋印塔）も発見されました。  
遺物では、瓦、かわらけ、陶磁器等が発見されました。



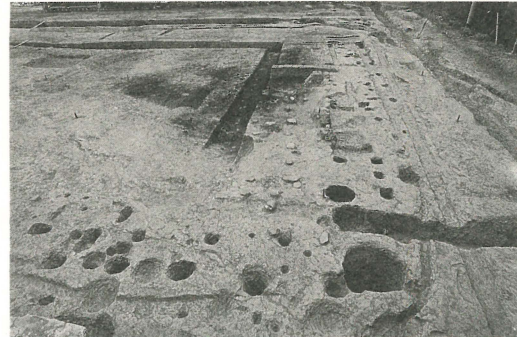
天守下門東側石垣



腰曲輪築塀  
(瓦を埋め込んでいる)



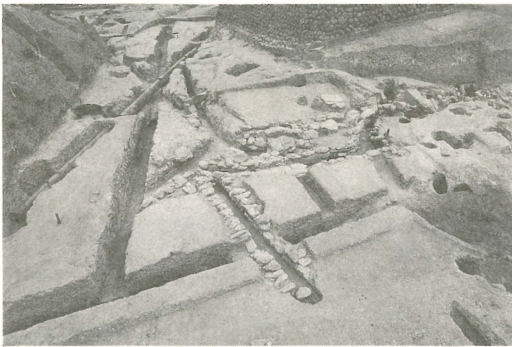
本丸の側溝



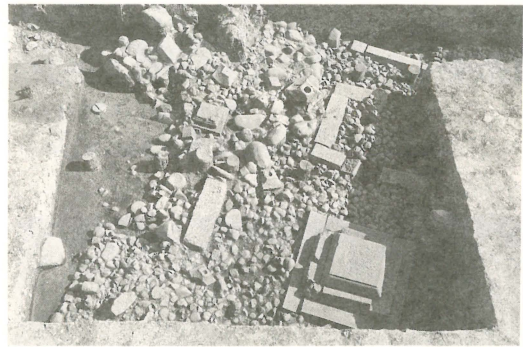
本丸の遺構



腰曲輪の玉石張り側溝と階段



本丸門周辺の暗渠



本丸下層の墓  
(中世)

## ほりのうちこふんぐん 堀ノ内古墳群

- 1、調査地 長谷～下俣
- 2、調査の原因 新市庁舎等建設に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 4,000㎡
- 4、調査の期間 平成4年4月～平成5年3月
- 5、調査の内容 調査により発見された遺構は、弥生時代中期（約2,000年前）の墓、弥生時代後期～古墳時代初頭（約1,700～1,600年前）の住居跡、古墳時代後期（約1,400年前）の横穴墓などがあります。  
弥生時代中期の墓には、木の棺おけを使ったものと、土器を棺おけに使用したものがありました。  
遺物には、弥生時代中期の石おの・土器、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器、そして古墳時代後期の横穴墓からは、土器と刀が見つかっています。



弥生時代中期の墓  
（墓穴の両側に溝が掘られている）



弥生時代中期の墓  
（穴の中には木棺をはめ込むための溝がある）



弥生時代中期の墓  
（土器を棺おけとして使用）



弥生時代後期～古墳時代初頭の集落跡



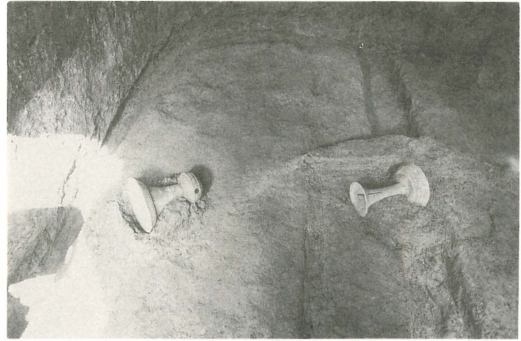
弥生時代後期の竪穴住居跡



竪穴住居跡から発見された土器



横穴墓入口の石  
(ふたに使われたもので約60 kgの重量がある)



横穴墓内から発見された土器



横穴墓内に残る当時の工具のあと

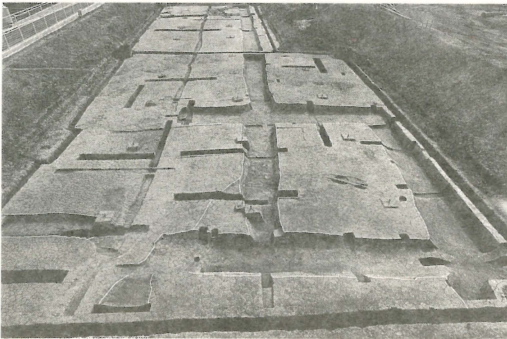


木芯粘土古墳全景  
(約1,400年前)

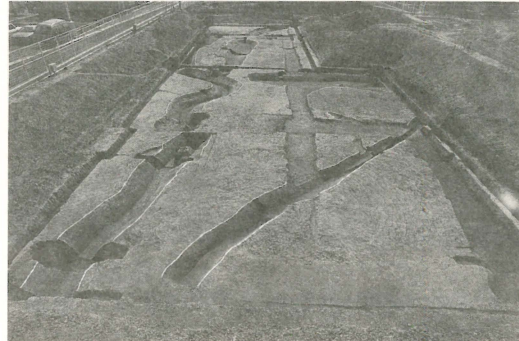
やまぐち

## 山口遺跡

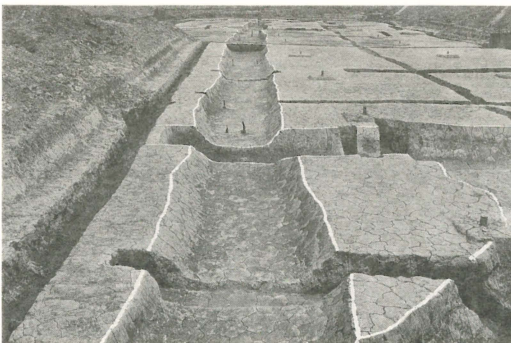
- 1、調査地 成滝 322-1ほか
- 2、調査の原因 技術棟建築に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 802㎡
- 4、調査の期間 平成4年4月～7月
- 5、調査の内容 調査では、古墳時代後期から平安時代の面と、その下の古墳時代の面の2面を発見しました。  
上の面も下の面も、遺構は溝だけでしたが、併せて14本の溝が見つかりました。これらは、はしる方向により、東西方向のもの、南北方向のもの、北西～南東方向のものにおおよそ大別できそうです。また、蛇行するものは自然の流れで、直線的なものは人工のものと思われ、その機能ははっきりしませんが、排水・導水・区画などが考えられるでしょう。



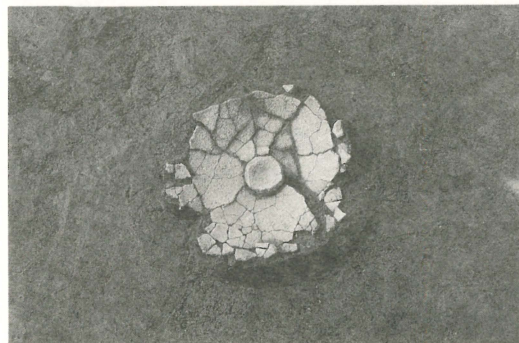
調査区全景  
(上の面)



調査区全景  
(下の面)



直線的にはしる溝



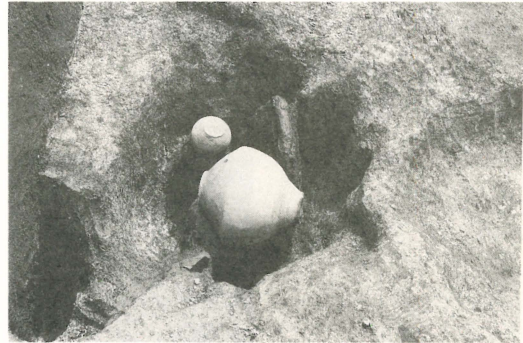
古墳時代の土器

## ひがしはら 東原遺跡

- 1、調査地 高田 1243-1ほか
- 2、調査の原因 市道改良工事に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 4,700㎡
- 4、調査の期間 平成4年5月～10月
- 5、調査の内容 調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（約1,700～1,600年前）にかけての竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡2棟、方形周溝墓2基を確認しました。住居跡や方形周溝墓の溝からは、多くの土器が出土しました。その他に、古墳時代中期に属する土壇墓からは、管玉が出土しました。



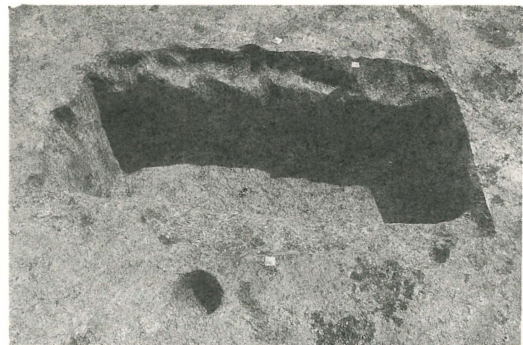
弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡



貯蔵穴内土器出土状態



弥生時代後期の方形周溝墓遺物出土状態



古墳時代中期の土壇墓

はらかわ  
原川遺跡

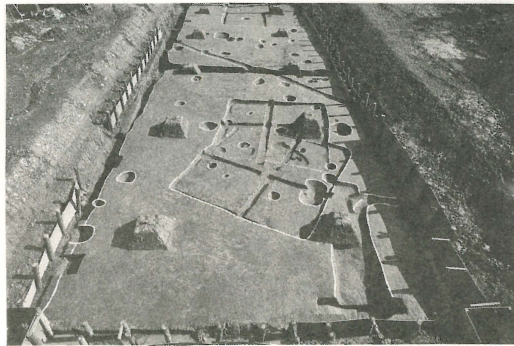
- 1、調査地
- 2、調査の原因
- 3、調査の面積
- 4、調査の期間
- 5、調査の内容

領家 1609-1ほか  
市営住宅建設に先立つ発掘調査  
335㎡  
平成4年8月～11月

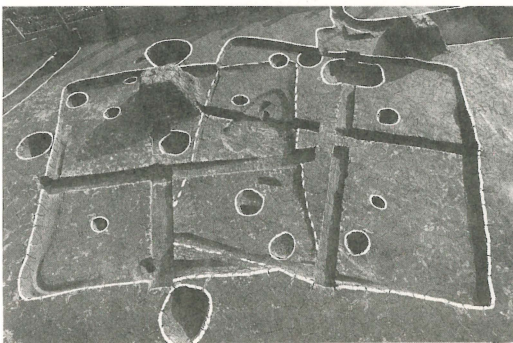
調査では、奈良時代から平安時代の面と、その下の古墳時代の面の2面を発見しました。

遺構は、上の面からは浅い溝が2本だけでしたが、下の面からは古墳時代後期（約1,400年前）の竪穴住居跡3軒、溝5本が見つっています。竪穴住居跡のうち2軒は重なっていますが、これは一方が使われなくなった後に、もう一方がつくられたためです。

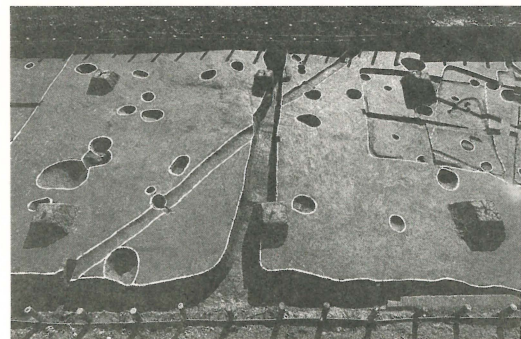
遺物は須恵器・土師器などの土器のほかに、儀式に使われたと思われる石でつくられた農工具の模造品なども見つっています。



遺溝全景  
(下の面)



竪穴住居跡  
(約1,400年前)



溝と小穴



かけがわじょう おおてもん  
掛川城 大手門跡

- 1、調査地 掛川 712-1-1
- 2、調査の原因 区画整理事業に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 140㎡
- 4、調査の期間 平成5年2月～3月
- 5、調査の内容 調査は、狭い範囲で行われましたが、多くの貴重な資料を得ることができました。絵図などの資料により、大手門は櫓門であったことがわかっていました。今回の調査では、大手門南西側柱の礎石根固め石を4カ所、門南西側の堀の肩、土塀基壇の根石を確認しました。  
礎石根固め石は、直径2m前後の土坑内に石が幾段かにわたって積まれていました。(写真参照)  
出土遺物は、門の扉に使用されていたと思われる鋳、金具、白漆喰、瓦、陶磁器がありました。



調査区全景



土塀基壇と根石と遺物出土状態



礎石根固め石と地覆石



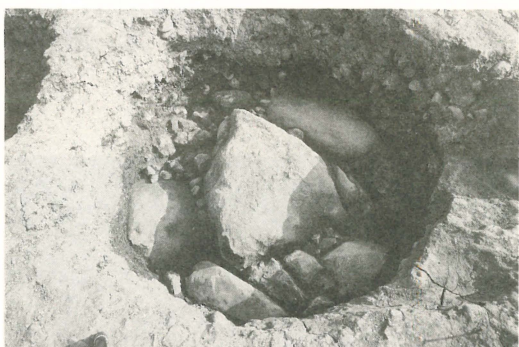
礎石根固め石1 第1面



礎石根固め石1 第2面



礎石根固め石1 第3面



礎石根固め石1 第4面



礎石根固め石1 完掘

下に遺跡がありませんか？

## 工事計画する前に確認してください。

現在、掛川市には930もの遺跡があり、県内一遺跡の多い市だと言われています。こうした遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと、とも言われ後世の人たちに伝えていくことが大切です。

このため、『文化財保護法』で、遺跡のある場所で土木・建築工事や茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届出をすることが義務づけられています。

工事のため申請したが、遺跡の調査で完成が遅れてしまった——— ということのないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、市内にある遺跡の様子を示した『掛川市遺跡地図』があります。次の場所に用意してありますので、計画前にぜひご確認ください。

・掛川市教育委員会 社会教育課文化係 TEL (24) 7773  
(24) 6268

・掛川市立図書館

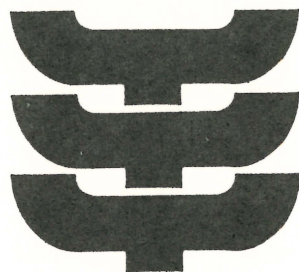
・掛川市役所内：良質地域課（2階）

# 位 置 図



## 掛川市「考古の日」

令和9年5月21日（陰暦）現在の長谷字小出ヶ谷地区において、銅鐸一口が発見され掛川藩に届出されました。これが現在の文化財保護法の遺物の発見届と同じことで、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と、これらを保護・保存しようとする意識の向上を願い、毎年5月21日を掛川市「考古の日」として設定しました。



文化財愛護シンボルマーク

※パンフレットの無断転写を禁じます。